

○ 取り組み宣言（あいことば）

ひろげようエコのわ ほんちょう エコキッズ！！

○ 重点環境活動①【環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成】

＜節電、節水、ごみの分別を意識する＞

取り組みの中で「なぜ分別をするのか、分別したものはどうなっていくのか」など、絵本などを使って幼児なりに考えたり意識したりできるように指導していった。「もったいないと言われたからやる」のではなく、なんのために取り組んでいるのかを幼児自身が意識していくことが、環境配慮行動へつながっていくと考えられる。

○ 重点環境活動②【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

＜おたよりやポスターなどにより家庭へ環境活動を呼びかける＞

今年度は家庭で過ごす時間が長いことが多かったため、園だけでなく家庭でもエコについて意識できるよう、幼児にもできる環境配慮行動のポイントをまとめたポスターを配布し、環境活動の啓発に努めた。それをもとに家庭でもエコについて考え、親子で意識してもらえる機会になった。

○ 独自の環境活動

＜省エネ・省資源活動＞

◎グリーンカーテンの設置

保育室前の花壇にゴーヤの苗を植え、グリーンカーテンにしていった。ツルの誘引などをまめに行いながら隙間なくツルが這うようにしていったことで、日射しを遮ることができ、保育室の窓際の暑さが和らいだ（計測したところ実際に-3℃だった）。また、夏季休業中の預かり保育もその保育室で行ったことで、グリーンカーテンを活用することができ、継続的な省エネにつながった。

◎資源物の回収

新型コロナウイルス感染予防のため、資源物は回収するものの種類を減らした。そのため回収量が減ってしまったが、家庭で回収できるマークを探し、資源物であるという意識をもてるようにした。

＜清掃活動＞

密になることを避けつつ、親子で園内の草むしりを行ったり、保育の一環として園庭の草むしりや保育室のごみ拾いなどを行ったりした。園外での活動は新型コロナウイルス感染予防の観点から取り組んでいない。今後も情勢に配慮しつつ、園内だけでなく家庭や地域と共にエコに対する意識を高めていけるよう、連携していきたい。

エコポスター



グリーンカーテンの下は涼しかったよ！

○ 取り組み宣言（あいことば）

みなみエコキッズ ～エコしちゃおう！～

○ 重点環境活動①【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

☆ごみの分別を園生活や家庭の中で実施する

各クラスに“燃えるゴミ”と“プラスチック”のゴミ箱を置いているが分別を意識せずに近いゴミ箱に捨ててしまう姿が見られた。年少児はエコスクールに参加したことでゴミの分別に関心をもち、「これは燃えるゴミかな…？」と考える姿が見られるようになった。年長児はアルミ・スチール・紙・PETマークなどいろいろなマークがあることやどのようなものにリサイクルされるのかを知らせると、「この服もペットボトルでできてるのかな？」と興味をもち、「牛乳パックに同じマーク(紙)があったよ」と友達と伝え合ったり、「昨日飲んだジュースの缶に“アルミ”って書いてあったよ」と家庭での気づきを話題にしたりする姿も見られた。

○ 重点環境活動②【温室効果ガスの削減】

☆節電・節水についての意識を高める。

トイレに誰もいないことを確認して電気を消しています

雨が降ってから湧水として出てくるまでの自然の流れや、水道水として水道から水が出てくるまでの人工的な仕組みのついて図を使い知らせた。湧水と水道水の違いに関心を示し、戸外遊びの際には「水道はお金がかかるからもったいないよ」と湧水を利用しようとする姿が増えた。また昨年度購入したエコに関する絵本を読むことで、日常生活の中で電気や水がどのくらい大切であるか幼児なりに理解し、使っていない場所の電気を消す・水を出しすぎない等、自分でできることを考えて取り組む姿があった。



○ 独自の環境活動

☆リサイクル活動

月1回、ミニ回収デーを設けることで資源回収が継続的に行われている。また空き箱やペットボトルキャップなどは大きさや種類ごとに分類しておくことで、遊びの中で使えるものを選び活用する姿があった。



ペットボトルでポリング作り

☆グリーンカーテンの設置

子ども達とゴーヤの種まきや水やりをして、生長を楽しみにしながら育てた。ゴーヤのグリーンカーテンでできた日陰を利用して、鬼ごっこなど遊びの途中で涼む姿が見られた。



たまごパックやトイレトーパーの芯でピタゴラスイッチ作り

☆湧き水の活用

常時流れている湧水は、砂場の方へ流れるようにホースをつなげたことで活用しやすくなった。桶を使い直接砂場に流したり、ベビーバスに水を溜めてバケツやじょうろに汲んで、遊びや植物の水やりに使う姿が見られた。

ホースでつなげた水を砂場に流して川作り



○ 取り組み宣言（あいことば）

ぼくもわたしもエコキッズ～ちきゅうのためにできること～

○ 重点環境活動①【 環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成 】

園生活の中でごみと資源の分別を実施し、定着させる。

各クラスで、ごみ箱と種類ごとに分けた資源ボックスを使用していたが、クラスで表示が違っていたり、絵表示が少なかったために、幼児が戸惑う姿が見られた。そのため、全クラス共通の表示を作成した。また幼児が絵表示と見比べて入れられるようにわかりやすいイラストを使用した。製作などで小さい紙切れやビニール袋、シール紙などが出た時には、子ども達全体に投げ掛け、一緒に考えてごみと資源を分別できるようにし、意識を高めるようにしてきた。少しずつ絵表示を見て分別する習慣が付き、わからないものは教師に尋ねてくる姿が見られるようになってきた。



○ 重点環境活動②【 家庭・地域への環境配慮行動の波及 】

親子でリサイクル活動をする中でエコ活動への意識を高め、資源を大切にする習慣をつける。

エコ活動への意識を高めるため、PTAで行っている北っ子資源回収（月に1回）について、エコ新聞で取り上げたり、クラスで話題にしたりした。小さい子を連れての登園で、重いものやかさばるものを持ってくることが難しい方がいられることや、幼児のリサイクル活動の意識が継続するように、常時、テラスにエコキャップの回収ボックスを置くようにした。透明な入れ物で回収量が増えていくのが目で見てわかることもあり、関心をもつ幼児が増え、昨年度よりも家庭から持参する幼児が多くなった。また、エコ新聞に、取り組みについての記事を取り上げたことで回収率も高まった。



○ 独自の環境活動

（1）エコに関する視聴覚教材の活用や日々の園生活の中での実践を通して、物を大切にする意識を育てる。

SDGsに関する絵本や「もったいない」という気持ちをもてる絵本などの読み聞かせをし、幼児が日頃の生活の中で意識がもてるよう、折に触れ、絵本の内容を話題にしてきた。昼食時にはお弁当を残さず食べることで、食べ物が無駄にならず、ごみが減ることを伝えてきたところ、教師が声をかけなくても、一粒も残さず米を食べようとするなど、小さな変化が見られるようになった。これからも視覚教材などを効果的に活用し、身近なところから一步一步、物を大切にする意識がもてるようにしていきたい。



（2）エコ新聞を発行し、園でのエコ活動の取り組みやエコに関する情報を提供することで、家庭で環境について考えるきっかけを作り、環境に対する意識を高める。

環境に対する意識が高まるよう、エコ新聞を発行し、関心をもって欲しいことや幼稚園での取り組み、北っ子資源回収への意識づけなどをしてきた。また、紙類などの分別の仕方を詳しく載せたことで、「今まで、ごみだと思っていたものが資源だったり、資源だと思っていたものがリサイクルできないものだ」と知ったりするきっかけになった。」という声が寄せられ、保護者の意識の変化も感じることができた。



令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立東幼稚園

○ 取り組み宣言（あいことば）

ちきゅうをまもろう！ エコキッズ～できることから はじめよう～

○ 重点環境活動①【環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成】

各クラスで、節水や節電を意識して声をかけあい、「気づいたら消す、止める、大切に物を使う」という習慣が身についてきている。クラス内では、燃えるゴミ、プラスチックゴミ、資源を子どもたちにわかりやすく表示を付けて分別できるようにしている。遊んだ後や制作時にも、友達や先生と確認しながら分別をしている。その際ゴミは、できるだけ小さくし、使えるものは次回の制作材料としている。「もったいないから」という意識はさらに向上し、表示の活用は効果的であった。

○ 重点環境活動②【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

資源回収・エコキャップ回収

資源回収の取り組みは、このようなコロナ禍の状況の中、PTA役員さんも少人数、短時間での回収とし、職員と協力して継続している。また、エコキャップの回収も保護者、子どもたちの意識も高まり、家庭から持って来るとクラスで量を測ったり、重さを比べたりして職員室に運ぶ姿が見られる。回収したペットボトルキャップは地域の店主に届けることで世界のワクチン代として役立ち、回収する喜びを感じている。園だよりやクラスだよりで子どもたちのエコ活動を推進する姿やつぶやきを発信することで保護者にも回収の目的や成果が伝えられた。

○ 独自の環境活動

『ゴミを資源とわけるンジャー』の登場は、年少児の視覚からの関心度を高め、子どもたちのゴミへの分別意識がより伝わった。クラスや家庭のゴミも「これは紙だから燃えるゴミ」「お菓子のビニールはプラスチックゴミだね」と自らやってみる姿が増えた。『もりりん』の「残さず食べる」「水も鉛筆一本」も合言葉となり日常生活の中で活かしている。

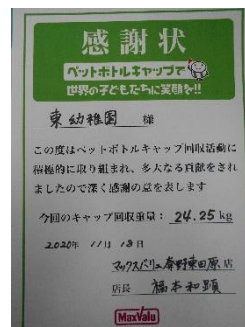
地域の自然を知り、散策や自然遊び『ネイチャーゲーム』を通し、年長児は自然を大切にしながら楽しめる場所を守っていく活動を行った。その刺激を受け、年少児も虫や草花などを探したり自然物を使って遊んだりする経験をして、自然の恵みを感じることができた。今後も地域の自然環境を大切に、活動を続けていきたい。



水を大切にしながら手洗い



ゴミの分別を意識して



エコキャップ回収



資源をわけるンジャー

令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立大根幼稚園

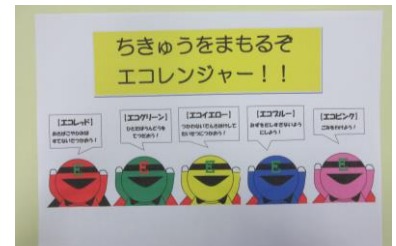
○ 取り組み宣言（あいことば）

ちきゅうをまもるぞ「エコレンジャー」
～ できることからやってみよう！ ～

○ 重点環境活動①【環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成】

水や電気、ものを大切にする習慣を身につける

幼児が進んで意識できるように園独自の『エコレンジャー』の表示を活用した。電気のスイッチや水道の蛇口の近くに表示することで身近に「もったいない」と進んで電気を消す姿や、水の量の出し方に気を配る姿が見られた。繰り返しながら、日々の園生活で身につけてきた。紙や空き箱をすぐに捨てずに再利用するなど、できることから習慣として身につくよう、引き続き意識を高めていきたい。



大根幼稚園には「エコレンジャー」がいるんだよ！

○ 重点環境活動②【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

家庭や地域と共にエコ意識を高める



PTA 中心の資源回収だが、園児も当番を行い、意欲的に参加して「エコ活動」の意識が親子で高められた



PTA 有志が園庭で落葉掃きや草むしりをしてくださり、その姿に刺激を受けた幼児は、身近な環境をきれいにする意識をもつことができた



エコキッズだよりの発行により、「エコ活動」の取組みを保護者に知らせ、環境活動への

○ 独自の環境活動

「エコ活動」の意識を継続して高める

エコスクールを実施し、ごみの分別方法やリサイクルについて学ぶ。分別をすると、思った以上にゴミは少なくなり、減ることの大切さを知る。昨年、分別方法について学んだ経験がある年長児は、分別の仕方がよくわかり意識が育っていることが分かった。

外にもクイズ形式で、牛乳パックからトイレトペーパー、プラスチックから服等の資源になることを学んだ。「水を出す量は鉛筆1本分」等、園生活で毎日の小さな積み重ねを大切に「エコ活動」の意識を引き続き高めていきたい。

教材をリユースし、資源を再利用する取り組み

製作に使う画用紙や折り紙は分別し、自由に出し入れできるように置き場所を決めて保管している。空箱や空き容器など、教材として捨てずに使い、幼児が自由に選び、いつでも使える環境に整えている。製作で残った紙も進んで利用し、廃材を大事に使う姿が見られた。

これからも捨てる前に、「まだ、つかえるかな？」と意識しながら、資源を再利用する身近な取り組みをしていきたい。



「エコスクール」での分別体験



空き箱は資源！大切に使う

○ 取り組み宣言（あいことば）

ものをたいせつにします みらいにつなぐ かみレンジャー

○ 重点環境活動①【環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成】

◇「ものを大切にする習慣を身につけ、節電、節水を園や家庭の中で実践する。」

節電・節水については、日々の園生活の中で子どもたちが自分で意識して行動できるような指導を心がけた。子どもたちが視覚的に意識することができるように、水道場と電気のスイッチには表示を掲示した。また、日々の生活の中で教師自身が節電や節水を意識した行動をし、子どもたちのモデルとなるように心がけた。徐々に子どもたちも意識するようになり、「外に行くから電気を消すね。」と自分から行動したり、水をたくさん使っている友達に「水が出すぎているよ。」と伝えたりするようになってきた。



○ 重点環境活動②【温室効果ガスの削減】

◇「ゴミの分別や、ゴミを減らす意識をもつ。」

ゴミ箱に『もえるゴミ』と『プラスチックゴミ』の表示をつけ、子どもたちが分別を意識することができるようにした。子どもに分かりやすいよう、ゴミのイラストを張り付け、燃えるゴミは赤、プラスチックゴミは青の色で統一した。イラストがあることでゴミを捨てる時に表示を見て分別したり、教師や友達に「このゴミはプラスチックだよな？」と確認したりする姿が見られるようになってきた。



色画用紙等の端切れも、「まだ使えそうなところは取っておくと、また遊びで使うことができる。」と伝えた。次第に、「まだ使えそうだよな！」と言って、捨てずに有効活用しようとするようになってきた。

○ 独自の環境活動

◇「かみレンジャーとしてのリサイクル活動を楽しみながら

継続、実践し、その成果を実感する。」

子どもたちが自分から積極的にエコ活動に取り組むことができるように、視覚教材（スケッチブックシアター、ペープサート）を用いて、なぜエコ活動をするのか、どのような行動がエコに繋がるのかを知らせていった。

また、子どもたちが「エコポスター」を作成し、保育室、小学校の各教室・職員室・給食室などにポスターを届け、エコキャップと牛乳パックの回収の協力を呼びかけた。幼稚園では毎週木曜日を「エコの日」として保護者にも協力していただいた。定期的に子どもたちが「かみレンジャー」になって、小学校



多目的ホール前に設置してある回収ボックスからエコキャップと牛乳パックを回収し、ペットボトルキャップを農協に届け、業者へ引き渡していただいた。また、農協の「上支所だより」に、幼稚園のエコ活動について掲載していただき、地域の方にも知っていただくことができた。今後も園児、保護者、小学生と一緒にエコ活動を継続し、子ども一人ひとりが自分から進んでエコを意識した生活ができるようにしていきたい。

令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立西幼稚園

○ 取り組み宣言（あいことば）

みんなで エコ！ ～エコエコかえるといっしょに～

○ 重点環境活動①【環境配慮行動意識の高い子どもたちの育成】

「エコエコかえる」というキャラクターを考え普及させる。

また表示を作り投げかける等工夫をし、子どものゴミの分別への意識を高める。

子ども達が親しみやすいようなキャラクター「エコエコかえる」を考え作成し、園内の様々な所に掲示し、普及させていった。かえるの色によって分けられるよう、燃えるごみや燃えないごみ、資源などごみの分別に関心を持てる表示に加え、電気や水を大切にできるように投げかけるものも作成していった。エコエコかえるの色を見ながら「このごみはオレンジのかえるだね」と意識したり、エコエコかえるを自分達で探して表示がどのようなことを伝えようとしているのか絵から読み取ろうとする姿も見られた。

また、年少児は分別の仕方が理解できるよう、エコスクールを活用した。その後は片付けの時に「これは何ごみ？」と確認してくるなど、ごみの分別を意識する姿が見られた。今後は今年度作った表示を活用しながら、再度クラスでごみの分別について確認したり、習慣づけていくことで、資源を大切にできる子どもたちを育てていきたい。



○ 重点環境活動②【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

週に一度ゴミ拾いをする日を設け、家庭や地域への波及を図る。

今年度重点活動②としてごみ拾いをすることを掲げたものの、コロナウイルス感染症拡大防止の為、行うことができなかった。しかし、毎週火曜日（強化月間は火曜・木曜実施）の「ひとさげ」の日には親子で資源(空き缶・段ボール・牛乳パックなど)を持って登園し、リサイクルできるものの分別と、ごみの減量へつなげる意識を高められるよう取り組んでいる。「ひとさげ」活動を担当するクラス委員や有志の保護者にシールをもらい、10個たまると折り紙のプレゼントがあり、それを励みに意欲的に参加している。また、回収率をキャラクターの顔の色塗りをする事によって各クラスの取り組みが分かるようにした。キャラクターの完成を目指すことで、参加意欲を高めよう工夫をした。

コロナウイルス感染が少しでも緩和しごみ拾いができるような状況になり次第、こちらも実施し、「ひとさげ」に加え、西幼稚園ならではの活動として取り入れ、広げていけるように努力していきたい。

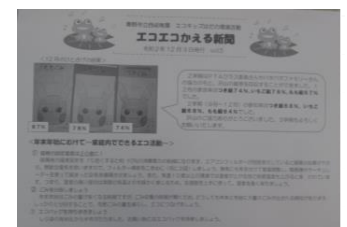
○ 独自の環境活動

「エコエコかえる新聞」を発行し、家庭との情報共有をすることで意識を高める。

毎月1回「エコエコかえる新聞」を発行し、その月の「ひとさげ」へのクラスごとの参加率や、気を付けてほしいこと（分別の仕方やコロナ渦でもできる省エネ等）を知らせ、各家庭へのエコ活動への意識の啓発を行った。今後は一方的に伝えるのではなく、家庭での取り組みを聞きながら取り上げられるよう工夫しながら続けていく。



掲示場所に結果を楽しみに見に行く姿もあります



令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立ほりかわ幼稚園

○ 取り組み宣言（あいことば）

「もったいない」からはじめよう
～生活の中で「もったいない」に気づいていこう～

○ 重点環境活動①【環境配慮行動の高い子ども達の育成】

節電、節水の意識を高める

- ・節電、節水の意識を高めるために、電気スイッチ付近と水道についていた表示を見直し、古くなっている表示は新しい表示にした。また、エコに関する絵本もクラスで取り上げた。絵本で読んだことで、自分達ができることに気づくことができ、「誰もいない部屋や、トイレの電気は消そう」「水を流しっぱなしにしないよ」など声を掛け合い、すすんで節電や節水を心がける姿につながった。



水を止めよう！

○ 重点環境活動②【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

園での取り組みを家庭や地域に発信する

- ・園だよりやクラスだよりで、エコキャップ運動の取り組みや、廃材を使って遊んでいる様子を知らせていったことで、園での活動に家庭でも興味をもち、家庭にあるエコキャップや廃材を持ってきてくれるようになった。また、エコキャップ運動の受領書や集めたエコキャップでワクチンが何人分になったかを目に付きやすい玄関に掲示したことで、子ども達だけでなく、来園した保護者の方にも知らせることができた。



玄関に置いてある
エコキャップ運動の表示

○ 独自の環境活動

リサイクルの推進をする

- ・エコキャップ運動の意識を高めるために「なぜエコキャップを集めるのか」を子ども達に伝えたり、各クラスに置いてあるキャップ入れの表示を見直したりした。
- ・家庭から回収したエコキャップを地域の店に年長児が届けに行った。地域の方に「持ってきてくれてありがとう」と感謝されたり、エコキャップの受領書をいただいたりしたことで、自分達の取り組みが役にたっていることを感じたようだった。
- ・PTA 協力のもと、各家庭にある古紙、牛乳パック、段ボール、アルミ缶を資源回収している。スタンプカードや手作りの折り紙のご褒美は、子ども達の励みにもなり、更にすすんで活動に協力する姿が見られる。



各クラスに置いてあるキャップ入れと表示



PTA主催の資源回収の様子

令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立ひろはたこども園

○ 取り組み宣言（あいことば）

しげんをたいせつに！ ～ぼくらがいまできること～

○ 重点環境活動①【 家庭・地域への環境配慮の波及 】

・資源回収の促進

PTAの方と協力をして月に2回、一束運動を実施している。資源はリサイクルでき、新しい物に生まれ変わることをエコ教室で知らせたことで、家庭でも資源について会話をし、意識して資源を集めようとする幼児が増えた。またPTAからエコスタンプを押してもらうことが楽しみとなり、積極的に資源を持ってこようとする気持ちにつながった。さらに、自分たちで使えるようなカップや空き箱等を家庭から持ち寄り、製作等に使い遊びに活用し遊びの幅が広がった。

○ 重点環境活動②【 子どもたちの環境配慮の行動向上 】

・エコ教室への参加

ゴミ箱の分別表だけでなく、幼児が見てわかりやすく分別できるようにごみの分別表に「リサイクル識別表示マーク」も取り入れ、幼児の目線の高さに表示した。ゴミの分別表を見ながら何ゴミか認識して捨てたり、マークを探したりと分別しようとする意識が高まった。また、エコ教室に参加したことで、ゴミを少なくすることが自然を守り環境に優しいのだということを理解し、製作等の画用紙の切れ端を「まだ使えるね」と捨てずに保管したり、再利用したりすることでゴミを減らそうとする姿にもつながった。

〈エコ教室〉



〈ゴミの分別表〉



○ 独自の環境活動

・節電する意識の向上 ～グリーンカーテンを使って～

発電の仕組みや電気の消費量を減らすことが地球温暖化防止につながることを知らせ、節電するためにはどんなことをすると良いのか考える機会をもったことから、ゴーヤのグリーンカーテン作りをした。自分たちで種からゴーヤを育て、できた日陰で過ごす涼しさや心地よさを実感していた。その経験からエアコンや扇風機等の電気の節電を心掛けることや、保育室やトイレの電気をこまめに消すことなど「自分達でもできる節電」に気付き、幼児が自分から節電に取り組む姿につながった。

〈ゴーヤの種植え〉



〈堆肥を使った土づくり〉



〈さつまいもほり〉



・食べ物を大切にしよう

給食で出た生ごみからできた堆肥を使用し、5歳児が、さつまいもやオクラを園の畑で、生長を楽しみに育てた。出来上がった野菜は、調理員に調理してもらい、旬のとりたてを食べた。野菜の栽培と収穫体験は、食べる喜びや、作ることの大変さを知ると共に調理員への感謝の気持ちとなった。同時に、日頃の食育指導と重なり、自分の適量を知り、残さず食べようとする意識につながった。また、大きくなりすぎ食に適しないさつまいもをスタンプにして遊んだり、半分に切って中を観察したりする等、活用することで“もったいないをなくす”気持ちも育った。

令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立みどりこども園

○ 取り組み宣言（あいことば）

みどり戦隊もったいないんジャー！～集める・分ける・たいせつにする～

○ 重点環境活動①【環境配慮意識の高い子どもたちの育成】

<エコスクールへの参加>

・「はだのエコスクール」に参加し、水についての話を聞いた。『水はどこからやってくるの』という紙芝居を通して、池や川の水が家庭や園とつながっていることを知ることができた。また、「水は限りある資源」であること、そのために「一人一人が大切にしなければならぬこと」を知り、自分たちが今できることを改めて意識する良いきっかけとなった。

節水については、日頃から絵表示を見ながら意識する姿も見られるが、今回のエコスクールの話と関連づけながら保育教諭が継続して言葉をかけ、さらに水を大切にしようとする意識が持てるようにしていく。



水はどこからやってくるのかな？

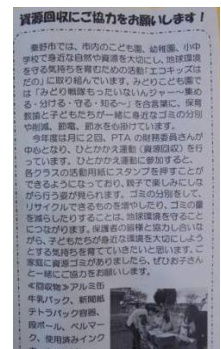
○ 重点環境活動②【家庭・地域への環境配慮行動の波及】

<エコ活動を保護者へ周知>

・園だよりでエコ教室の実施やPTAが中心となり行っているひとかえ運動（資源回収）など、エコへの取り組みについて保護者に知らせ情報共有に努めた。資源回収については、家庭から資源物を持参すると、各クラスの活動用紙にスタンプを押すことができ、子どもたちは喜んで取り組んでいる。家庭でもエコへの関心を高めてもらい、家族で環境について考える機会がもてるようにしていきたい。



資源回収の様子



園だよりでエコ活動を周知

○ 独自の環境活動【身近なものを大切にできる心を養う】

<節電・節水・ゴミの分別を意識して行う>

・水道や電気スイッチにエコキャラクターの表示を貼り、節電・節水の意識がもてるようにしている。表示の見直しを行い新しい絵表示にすると、「水は鉛筆一本分にする」「わかない部屋の電気は消す」など改めて意識する姿が見られるようになった。保育教諭が進んで取り組む姿を見せること、継続して知らせることはもちろん、興味関心につながる掲示の仕方の大切さを改めて感じた。

・ゴミの分別をテーマにエコ教室を行った。幼児とゴミの種類を確認後、捨てることただのゴミが、分けると資源となり、新しい製品に生まれ変わることを知らせた。実際にゴミを使って分別したことで、ゴミを捨てる前に表示を探したり、何のゴミなのかを考えたりする姿が見られるようになった。プラスチックゴミや空き箱から「プラ」「紙」などの表示を見つけ、「マークを見つけたよ」と気付いたことを保育教諭や友達に知らせる姿が見られる。今後も定期的にゴミの分別をクラスで確認し、習慣化させていく。



キャラクターの絵表示



エコ教室の様子

<南地区の湧水のおよさを知る>

・今年度は新型コロナウイルス感染拡大防止を最優先にし、園外保育で今泉名水桜公園へ出かけ湧水を見たり触れたりすることができなかつた。そのため、エコスクールで学んだ話や日頃の節水と関連付けながら、水を大切にすることを知らせていった。来年度については、身近な地域にある湧水の良さをできる方法で知らせていきたい。

○ 取り組み宣言（あいことば）

ちきゅうをまもろう！～すえひろエコキッズ～

○ 重点環境活動①【環境配慮行動の高い子どもの育成】

〈廃材を活用した遊び〉

家庭から持ってきてもらった廃材を使いやすいように置いておくことで、製作遊びを楽しんでいる。箱だけでなく、ラップ芯やプラ容器などの中から自分で作りたい物に合わせて廃材を選び、製作する姿が見られている。「車を作りたいから、ママに箱を取って置いて頼んであるんだ」と、子ども達も廃材を“ゴミ”ではなく“遊びの材料”として活用している。



〈“もったいない”と思う気持ち〉

“もったいない”とはどのようなことなのか知らせるために、エコや自然環境について描かれている絵本を読み聞かせる。「水をいっぱい出したらもったいないよ」「ペットボトルは洋服に変身するんだって」など、節水・節電の大切さを感じたり再利用できる物があることを知ったりするきっかけになった。



○ 重点環境活動②【温室効果ガスの削減】

〈節電・節水〉

節水・節電については、日々の園生活の中で子ども達が自分で意識して行えるような保育を心掛けている。子ども達と節水・節電のマークを考えて色塗りした表示を水道場や電気スイッチに掲示することで、水を出す量を視覚的に確認しながら使うことに繋がっている。また、保育室やトイレを使用していない時には電気を消すことを見本となるように保育教諭が生活の中で行いながら知らせていったところ、徐々に子ども達自身が気付くようになり、進んで節電を心掛けるようになった。



○ 独自の環境活動

〈エコスクールに参加する〉

はだのエコスクールに参加し、わかるンジャーやもりりんからごみの分別方法や資源とごみの違いについて学んだ。日頃、ゴミとして捨ててしまう物のなかにも正しく分別すると資源として再利用できる物があることを話や劇を通して学ぶことができた。また、エコスクールの中で、実際に自分達で分別をしてみる経験をしたことで、ごみの分別に対して再確認することができた。ごみ箱の“もえるごみ”“プラスチックごみ”の表示にも意識をもち、ごみを捨てる時に表示を見ながらどちらのゴミか考えたり、「これはプラスチック？」と保育教諭に確認したりする姿が見られるようになった。



〈グリーンカーテン〉

プランターでゴーヤと朝顔を育て、グリーンカーテンを設置した。つるがどんどん伸びることや日影ができることに興味をもちながら大切に育てる姿が見られた。また、日陰によって部屋が涼しくなることを知るきっかけになった。栽培後には、ゴーヤの実を使って野菜スタンプをしたり、朝顔の花を使って色水遊びや押し花をしたりして楽しむことができ、子ども自身が自然を活かした遊びの面白さを味わうことができた。



〈食材を大切に〉

① 給食を残さず食べる

どうしても残ってしまった給食は、ゴミになってしまうことを伝え、自分が食べられる量を子どもなりに目標を決めるなど、身近なところからエコの意識をもつことができた。

② 食べない部分をウサギの餌に

飼育当番でウサギの餌として与えている野菜の皮は、給食で使わない部分だと知ると、「ゴミが少なくなるね」とエコと繋がっているを感じている姿があった。

令和2年度 エコキッズはだの 環境活動レポート

〔園校名〕 秦野市立つるまきこども園

○ 取り組み宣言（あいことば）

みんなで変身！エコレンジャー！
合言葉は「わける・へらす・たいせつにする」

○ 重点環境活動①【電気や水、物を大切にする意識を持つ】

◆エコ教室の実施

4、5歳児を対象に、エコ教室を実施した。ゴミの分別、水や電気の大切さなど地球にやさしい行動について、つるまきこども園オリジナルのキャラクターを用いて「エコとは何か」を知らせた。また、クイズやゲームを加えた視覚教材を使い、分かりやすく知らせることで、エコ教室後、保育室に戻ると「エコグリーンが言ってたから、給食を残さず食べよう！」とクラス内で声を掛け合ったり、園内にあるエコレンジャーの表示を探したり、「エコイエローいた！電気は消すんだよね！」と友達と知らせ合う姿が見られた。後日、エコ教室で使用した教材を貼り出すと、子どもたち同士でクイズやゲームに挑戦しながらエコについて考える姿が見られた。



視覚教材

○ 重点環境活動②【ごみの分別やゴミを減らす習慣を身につける】

◆廃材制作（空き箱の再利用）

今年度ははだのエコスクールが実施できなかった。園内でのエコ教室の実施や、生活の中にある「身近なエコ」に関心が高まるようにごみ箱や水道場に絵表示を貼った。家庭で出た空き箱や使い終わった容器などを集め、自由に使えるように環境を設定することで、廃材を使った制作遊びを楽しんでいた。廃材制作を行う中で、まだ使えるもの、使えないものなどを自分で考え、「もったいない」という気持ちを子どもたち自身で考えることができた。ゴミ箱にある表示をみて「これは〇〇ゴミだね」と、保育者や友達と確認し合いながら分別をする姿が見られるようになった。

ゴーヤやアサガオのグリーントネル

○ 独自の環境活動

◆グリーントネルづくり、夏野菜の栽培

プランターでゴーヤやアサガオなどを育て、グリーントネルを作る。毎日の水やりは年長児が自ら気付き率先して行う。その中で、植物の生長につれて日陰ができることを子どもたち自身で発見していた。暑い日の戸外遊びの際、トンネルに入って体を休めたり、花びらを使って色水遊びをしたりして活動することができた。年長児はグループごとにプランターで野菜を栽培する。生長の過程を見ながら、友達と協力して育てたり、収穫できる喜びを経験したりすることができた。

水やりをしたよ



◆エコキャップ、空き缶、牛乳パックの回収

保育室や、玄関にエコキャップの回収容器を設置している。ワクチン1本分の目安の線が引いてあり、「線までいっぱいになりたいね」と積極的に集める姿がある。また、PTAの協力のもと、空き缶や段ボールの回収も行っている。登園時に親子で参加できるようにすることで、子どもたちも意識するようになり、進んで参加をしている。

◆飼育物へのえさやり

給食室から調理の際に不要になった野菜の皮や芯などをもらい、飼育物のえさとして与えている。飼育物のえさとして活用することで、ごみの削減につながったり、食べ物大切にすることや「もったいない」と思ったりする気持ちが育つようにすると、「食べられる所は食べないとね」「完食しよう」と給食を残さないよう意識して食べる姿が見られるようになった。

○ 取り組み宣言（あいことば）

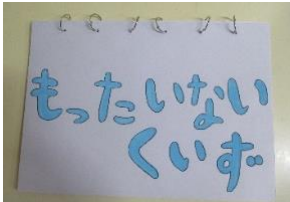
みんなでエコ！

～えこひめ、えこおうじといっしょに～

○ 重点環境活動①【環境配慮行動意識の高い子どもの育成】

エコ・リサイクルに興味をもつ

各クラスでエコ教室を実施し、ごみ箱に捨てると「ゴミ」になってしまうが、正しく分別すると、また新たな物として生まれ変わる物があることを知らせた。また、紙箱や画用紙の切れ端など子ども達にとって身近なものを題材に「もったいないくいず」を作り、遊びや生活の中で出た物が、「ゴミ」か「資源」か考えられるようにした。「先生、これゴミ？それとも材料になる？」など確認にくる幼児もおり、資源になるものは大切にしようとする姿が見られた。正しく分別できるようになったことで、ごみの削減にもつながった



○ 重点環境活動②【温室効果ガスの削減】

グリーンカーテンの効果で涼しさを感じる

ゴーヤのグリーンカーテンを職員室前に設置した。日なたと日陰で平均2度の気温の変化が見られた。室内に直接日差しが当たらないことで節電に繋がった。子ども達もグリーンカーテンでできた日陰で休息や水分補給をして過ごすことで、自然物の力で涼しくできるということを経験できた。



○ 独自の環境活動

「もったいない」という気持ちを育む

段ボールコンポストの『キエーロ』を設置した。5歳児保育室前に設置したことにより、子どもたちのキエーロに対する興味も高くなった。給食で床に落としてしまった食材がキエーロの土と混ぜ合わすことで分解され、食材がごみとして処分されるのではなく、土の力で花の肥料として再利用できることを学んだ。合わせて食べ物を落としたりこぼしたりせず大切に作る気持ちを育ててきた。また、保護者には「園だより」でキエーロの働きについて知らせ、食品ロスについて家庭内でも意識が向けられるようにした。



リサイクル活動について知る

月2回、資源回収「えこえこデー」を実施し、家庭内の新聞紙や段ボール等を回収した。子どもたちに、回収した資源がトイレットペーパーや新しい段ボールに変わることを伝えると、資源回収に対する意識も高まり、資源を持ってくる家庭が多かった。参加した家庭にはえこえこカードにスタンプを押すことで、子どもも楽しく参加することができた。